

表紙の言葉

『黒漆梅月螺鈿膳』

縦横約37cm、入角形の膳です。総体黒漆塗りに、貝の内側の螺殻部分を利用する「螺鈿」の技法が用いられています。表面の剥離が激しかったせいでしょつか、あとから透漆を重ねた様子がうかがえます。

文様を見てみると、膳の見込みには梅と月が、立ち上がり内側には四面とも菊枝文が配されています。黒い背景の中にすっきりと描かれた梅の木と、その上に配された弦月は、梅の芳香をききながら寒月を見る冬の風情を表しています。黒漆に螺鈿の漆器は、17世紀頃から琉球でも盛んに製作されましたが、それらは山水図の文様が多数を占めます。この作品のような梅月図はそう多くはありません。

梅の花は、寒さに耐え、ほかの花に先がけて咲くことから「花の兄」と称されました。また中国には「文を好めば梅の花は開き、学問を怠れば開かない」といった意味の故事があることから、文人の清廉な精神を表すと言われていました。さらに他の植物と組み合わせると四君子（蘭・竹・梅・菊）、歳寒三友（松・竹・梅）、三清（梅・竹・水仙）とも呼ばれ、絵画の画題としても描かれています。今回の作品に描かれているような梅月図も中国絵画の画題や日本の漆器の文様にしばしば見受けられます。日本の花といえば桜

ですが、工芸品の文様には以外にも梅枝や梅花を文様化したものが多いのです。

弦月と梅の文様で有名なものに、室町時代の漆器「梅月詩絵文台」（太宰府天満宮宝物殿所蔵）があります。当時、梅月図が好んで用いられたようで、ほかにも類似する作品が残っています。それを見る機会があったのでしょうか、それとも日本からの注文があったのでしょうか、琉球漆器にも非常に良く似た文様が描かれました。当館には、この作品を含めて梅月図が描かれた漆器をあと一点あります。色や形、製作された時代は異なりますが、文様の構図がとても良く似ています。

黒漆梅月螺鈿膳は、常設展示室第3室「月」のコーナーで展示中です。ぜひご鑑賞ください。

（伊禮）



黒漆梅月螺鈿膳



朱漆梅月螺鈿六角盆

美術館スケジュール 2007年12月～2008年3月

■常設展

琉球王朝文化の華－漆芸－

平成19年度後期 「漆器に描かれた自然」

10月16日（火）～平成20年4月上旬

■企画展

平成20年

- 1/16（水）～1/27（日） 浦添市小中学校美術作品展
- 1/30（水）～2/3（日） 美術館実習教室発表展
- 1/30（水）～2/3（日） 浦添市美術館友の会作品展
- 2/15（金）～3/16（日） 琉球漆器名品展－美の極み・うるし500年－
- 3/23（日）～4/6（日） 第60回 沖展（工芸部門）

■ギャラリー

平成19年

- 11/30（金）～12/2（日） 日本習字連天支部20周年記念展
- 12/11（火）～12/16（日） 比嘉良二 絵画展
- 12/19（水）～12/27（木） 宇夫方隆士 詩画展

平成20年

- 1/10（木）～1/13（日） 浦添工業高校デザイン科卒業作品展
- 2/6（水）～2/10（日） 教育学部美術教育専修「卒業・修了」展

開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

*金曜日は午後7時まで（入館は午後6時30分まで）

休館日

毎週月曜日

*年末年始にともなう臨時休館12月28日（金）～平成20年1月4日（金）

*企画準備のための臨時休館2月11日（月）～14日（木）・3月18日（火）～22日（土）

出前講座の利用団体募集

浦添市美術館では、「琉球漆器名品展」の関連事業として、学校や児童館、その他の施設などへ出かけて漆器の話をする「出前講座」をはじめました。

美術館まで団体で来るのは大変、という所にこちらから出向いて行って琉球やアジアの漆器についての話をするだけでなく、写真や漆の木、さわられる漆器などを持って行って見たり触れたりして漆器に親しんでもらおう、という企画です。

興味を持った子どもたちや一般の方々には美術館の展示会や常設展を見てもらって、さらに関心を深めてもらえればと思っています。

出前講座以外にも、美術館の機械室や収蔵庫など裏側をのぞく「美術館たんけんたい」の企画もあります。

この2つの講座は現在利用団体募集中（出前講座は浦添市内・近郊に限る）で、企画展の終了後も継続の予定です。興味のある方はぜひお問合せください。



編集・発行

浦添市美術館

URASOE ART MUSEUM

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9-2
Tel : 098-879-3219 Fax : 098-878-1221
http://www.city.urasoe.lg.jp/art/